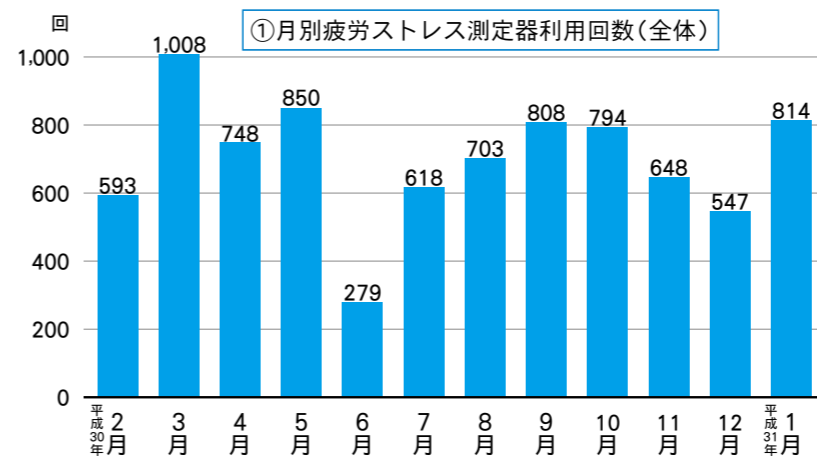


疲労ストレス測定結果から

問合せ/
仙北市地方創生・総合戦略室
☎43-3315

仙北市では、市内4つの温泉施設(角館温泉 花葉館、西木温泉ふれあいプラザクリオン、市民浴場 東風の湯、アルパこまくさ)に疲労ストレス測定器を設置し、市民の皆さんにご利用いただいています。疲労ストレス測定器利用状況(平成30年2月から平成31年1月末まで)をお知らせします。

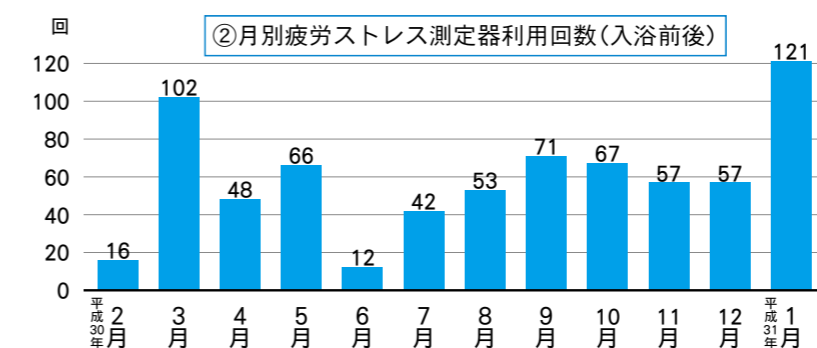


①のグラフから

平成30年2月と3月は、温泉無料券5回分を70歳以上の方々に配布しご利用いただき、特に3月は多くなっています。

6月は、1つの温泉施設で疲労ストレス測定機器に不具合が生じたため測定できない期間があり少なくなっています。

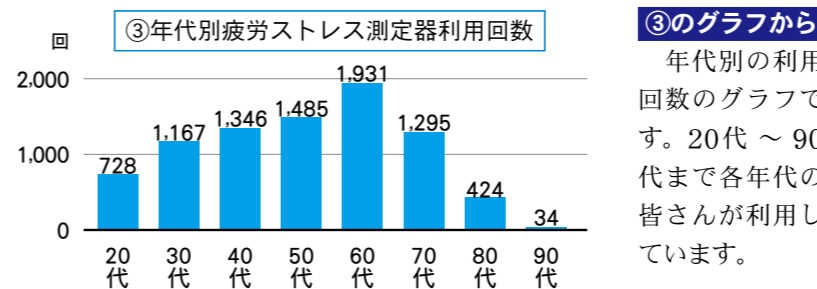
10月からは、ナイス温泉ラッキー事業の抽選会を行っています。農繁期や雪が降り始めると、測定回数が少なくなるようですが、平均利用回数は約700回でした。



②のグラフから

温泉入浴前後に疲労ストレス測定した回数をグラフにしたものです。

月によって、多かたったり少なかたたりとありますが、興味や関心をもってご利用いただいていることがわかります。入浴前後の測定結果を、入浴中や日常生活に活用できます。



③のグラフから

年代別の利用回数のグラフです。20代～90代まで各年代の皆さんが利用しています。

アンケート調査より

疲労ストレス測定とあわせて、アンケートで体調や日常生活についても回答いただいています。アンケートの「常に疲労感がありますか?」に「はい」とお答えくださった方々711人中(20代～90代までの方)、326人(※)の入浴後のストレス測定結果をみると

- ◆全体的にリラックスしている…31人
- ◆全体的に(心身の)バランスがよい…94人
- ◆全体的に非常にバランスがよい…5人
- ◆心身が活性化している…154人
- ◆肩バランスが悪い…21人
- ◆全体的にバランスが悪い…21人と、なっていました。

40代の若い世代の方々が疲れている割合が高く、ちょっと驚きでした。

温泉入浴により体が温まるだけでなく、リラックスしたり、疲労が回復している方もいます。温泉は、疲労回復、リラックス、ストレス解消方法として最適です。疲労ストレス測定をしながら、ご自身に合う温泉を見つけて、健康づくりに役立ててみませんか。

※20代40人、30代49人、40代84人、50代58人、60代63人、70代30人、80代1人、90代1人

3月のナイス温泉ラッキー事業抽選会のお知らせ

温泉入浴前後にパソコンのアンケートに回答、疲労ストレス測定器によるストレス測定5回分、賞品が当たる月1回の抽選にチャレンジできます。入浴前後で2枚1組のストレス測定結果票5組(合計10枚)を持って、抽選会場においでください。



《抽選会の日時・場所》

3月19日(火) 16時～18時 角館温泉 花葉館
3月22日(金) 16時～18時 市民浴場 東風の湯
3月25日(月) 13時～15時 アルパこまくさ

※西木温泉ふれあいプラザクリオンでは3月15日(日)に実施しています。

まちづくり日記

No.147

『地域で儲かる観光経営』

仙北市長 門脇 光浩

先月、中小企業家同友会仙北地区会の新春特別例会に参加しました。市長を囲んで激論パネルディスカッションを展開する企画でした。来場者は市内の皆さんはもちろん、市外からも相違お出でになっていたようです。これは、テーマが観光だったこともあり、広域的な連携の必要性を皆さんが理解していたからだと思います。

ところで、私の他のパネリストは、市内で企業を営む若手経営者4人(高橋佐知さん・佐藤慎さん・島川祥さん・木元千恵子さん)で、県内外で大活躍の豪華な顔ぶれです。またコーディネーターは高橋豪さんとよく知る方々ばかり。この場面は「失礼をお許しください、日ごろの率直な思いを口にしよ」と決めて、ステージに登りました。

DMOの設立に対する考え方、大型クルーズ船の入港客をどう仙北市に取り込むか…、多様な意見が飛び交いました。私からは「仙北市の観光政策は、観光事業分野の皆さんで留まっている現状があります。これを変えないといけません。地域で儲かる観光経営戦略が必要です。農家とか医者とか福祉事業所とか建設業

者とか、いえ市民一人ひとりの参加がなければ、地域全体が観光で儲けるなんて無理です。だからDMOという組織が必要なんです。大型クルーズ船の入港って、仮に港に100台の観光バスが迎えに行くと、そのバスの行く先はどこかといえは、今でも80台が仙北市です。このお客さまにお土産を一品買ってもらう、お昼ご飯を食べてもらう、お茶を飲んでもらう、そんな仕掛けづくりを市民連携で進めなければ、いくらクルーズ船が入港しても地域経済に好循環は起こりません。待たせても何も変わりませんよ」と、お話をしました。また、「仙北市は県内屈指の観光地ですが、市内には思うほどお金が落ちていません。自治体は商売が禁止です。でも、皆さんを応援することだけならできます。皆さんは民間企業ですから、一生懸命に商売してお金を儲けて、市民を一人でも多く雇用して、仙北市を盛り立ててほしい」と、お話をしました。

※お聞き苦しい発言をお許しください。

DMOとは? ディステイネーション・マネージメント・オーガニゼーションの頭文字の略。地域の多様な関係者と協同しながら科学的アプローチを取り入れた観光まちづくりを行う舵取り役となる法人のこと。

かくのだてフィルムコミッション

ロケーションだより

Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション

(仙北市観光課内) ☎43-3352

<http://kakunodate-fc.jp/>

2月9日から11日にかけて開催された第28回あきた十文字映画祭に参加してきました。

あきた十文字映画祭のスタッフとは、秋田県内の撮影支援の際に、エキストラの手配などお互いに協力しあう関係で、日頃から交流を深めています。

映画祭当日は好天に恵まれ、たくさんのお客様が訪れ、映画はもうっつん映画監督や出演者の舞台挨拶やトークを楽しんでいました。

かくのだてフィルムコミッションが支援した映画「君から目が離せない」も上映されました。韓流ドラマのような雰囲気をもったラブストーリーでした。ゲストトークには、主演の秋田市出身の俳優、秋沢健太郎さんも登壇し、わ

らび劇場のステージについて、風景だけではなく、舞台までロケ地にあつたことへの驚きなどを話されました。スクリーンの中には角館駅、角館總領守神明社、武家屋敷通り、松木内川堤、神代駅、わらび劇場など普段見慣れた景色や場所がふんだんに映し出されていました。ぜひ、仙北市でも上映の機会を設けて、市民の皆さんにも見てもらいたいです。

それから、父親が角館出身の女優、結城さなえさんが看護師役で出演している映画「生きる街」も上映されました。当初は映画祭に参加の予定でしたが、仕事の都合でかえりませんでした。ゲストトーク終了後に、秋山命プロデューサー、榊英雄監督、主演の夏木マリさんとごあいさつさせていただきましたが、結城さんとの再会が果たせず残念そうでした。しかしながら、映画と角館との新しい縁が生まれた今年の十文字映画祭でありました。



「君から目が離せない」のパンフレット。

(会長 坂本 洋)